

科目名	医療心理学特講	担当者	トビタ 飛田 イトコ 伊都子	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	-------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>本科目は、医療心理学として応用行動分析学の基本的な行動の原理を基盤に、患者もしくは医療者の行動変容を促す技法を身につけることを目的とする。医療現場においては、患者に対しては運動遵守や食事制限、医療者に対しては規程遵守など、行動変容が求められる場面が多い。これらの多くは、患者教育や医療者教育として「医療者もしくは管理者が指示する方法」が採用されているが、「当事者が実行するための援助」とはいえない。患者自身・医療者自身が行動を変容させ、自律的に実行できるようにする技法が必要である。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 問題発見・解決力：事象を注意深く観察して問題を発見し、解決策を提案する。 論理的・批判的思考力：得られる情報を基に論理的な思考、批判的な思考を身につける。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 医療場面における問題解決のために、人の問題行動を観察し、ABC (先行条件・行動・結果) 分析ができる。さらに、ABC 分析に基づき、結果の操作によるアプローチ (強化) 及び先行条件の操作によるアプローチ (弁別) を計画できる。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 Manaba-Folio の掲示板機能を利用して、受講者同士で課題図書に関する疑問点の質疑応答・意見交換を行う。</p> <p>【学修方略 (LS) と準備学修時間】 1つのレポート作成にあたり、基本教材および参考文献の読み込みに30時間以上、Manaba-Folioでのやりとりに15時間以上を目安とする。</p> <p><u>基本教材1</u>：教材に従って、基本的な行動原理のうち特に「強化」「弁別」を十分に理解していただきたい。その上で、医療場面における患者又は医療者の行動を観察し、その行動アセスメントとして、ABC分析を実施して行動随伴性を明らかにする。その問題行動を解決するために、結果の操作 (強化) 及び先行条件の操作 (弁別) による行動変容のためのアプローチを検討する。</p> <p><u>基本教材2</u>：教材に基づき、新しい行動を形成する方法を学習する。第Ⅲ部から第Ⅴ部まで詳述された行動変容法のうち、「シェイピング」「プロンプトと刺激性制御の転移」について医療場面の具体例を検討する。ここでは、「望ましい行動を増やし、望ましくない行動を減らす方法」として、「分化強化」「先行子操作」の技法を学習し、行動変容のためのアプローチを検討する。</p>		
スケジュール	<p><前期> ・レポート課題1 締切：6月末 (初稿) ★学事歴で定められた期限に提出する。 ・レポート課題2 締切：8月末 (初稿) ★学事歴で定められた期限に提出する。</p> <p><後期> ・レポート課題1 締切：10月末 (初稿) ★学事歴で定められた期限に提出する。 ・レポート課題2 締切：12月末 (初稿) ★学事歴で定められた期限に提出する。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	70%	1) 学習された教材内容が要約として示されていること 2) 課題に対する回答が詳述され、教材や文献が活用されていること 3) レポートの形式的条件を満たしていること
	観察記録	30%	1) 草稿用レポート提出、修正のプロセスを経て作成されていること 2) レポート修正時には、添削やコメント内容が反映されていること 3) レポート提出など、学習スケジュールが適切であること
履修者への要望	<p>1) 以下に行動変容法を臨床応用した事例を紹介している著書および研究論文を紹介するので、参考にしてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> 『行動分析学：行動の科学的理解をめざして』(有斐閣、2018年) ISBN: 9784641221024 2,100円+税 『ケースで学ぶ行動分析学による問題解決』(金剛出版、2015年) ISBN: 9784772414487 3,600円+税 坂上貴之 (2014) 看護すること (nursing) を支援する学としての行動分析学：随伴性のアレンジによる行動変容. 看護研究, 47 (6), 506-520. <p>レポートは、教材による学習内容を要約した上で、課題に応用して論じて下さい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名： 服巻 繁，島宗 理 教材名： 『対人支援の行動分析学（改訂版）』（ふくろう出版，2008年） ISBN:9784861863639 1,900円+税</p> <p>本書は行動の法則，行動のアセスメント，介入効果を評価するためのシングルケーススタディを含めた行動変容アプローチの基礎知識について，実践的にわかりやすく説明されている。さらに，問題行動に対するポジティブなアプローチ，恐怖や不安へのアプローチ，セルフマネジメント，パフォーマンスマネジメントを通して行動変容のための方法論が具体的に説明され，さらに，リハビリテーションを含む医療分野への応用として具体例が示されている。</p>
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> • P.A. アルバート，A.C. トールマン（佐久間，谷，大野，訳）『はじめての応用行動分析 日本語版第2版』（二瓶社，2004年）ISBN:9784861080159 3,200円+税
履修上のポイント	<p>行動は環境との相互作用である。問題行動と思われたとしても，どの様な場面で引き起こされ，その結果何が生じているのか，的確にアセスメントすることが必要である。まず，教材に従って学習した後，医療場面における患者又は医療者の行動を観察し，行動アセスメントとしてABC分析を実施して，3項強化随伴性を学習する。次に，問題行動を解決する技法を学習し，なかでも結果の操作（強化）並びに先行条件の操作（弁別）によるアプローチを学習していただきたい。</p>
レポート課題 1	<p>医療場面における患者又は医療者の行動を観察し，問題と思われる行動について，行動アセスメントとしてABC分析を行い，その3項強化随伴性について論じなさい。</p> <p>留意点：医療施設内の病棟や外来を含む環境の中での患者もしくは医療者の行動を例に挙げると良い。患者としての自分の行動を観察するのも良い。簡単な例として，「ゴミをベッド下に散乱する安静臥床患者」，「運動訓練を嫌がる患者」，「薬を飲み忘れる患者」，「頼みにくい医師や看護師」「外来で歩き回る患者」など，参考にしていただきたい。</p>
レポート課題 2	<p>脂質異常症（高脂血症）患者（男性，身長 170cm，体重 80kg）が運動して BMI25 未満 72kg まで体重を減らすように指示されたが，万歩計の1日の歩数を増加させることができません。各自で情報を追加して事例を設定し，なぜ歩数が増加しないのか，「歩く」行動についてABC分析を行い，「強化」と「弁別」によるアプローチを論じなさい。</p> <p>留意点：行動変容へのアプローチのうち，「結果の操作によるアプローチ（p80）」「先行条件に焦点を当てたアプローチ（p99）」を理解することを目的とする。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名： レイモンド・G・ミルテンバーガー（園山，野呂，渡部，大石，訳） 教材名： 『行動変容法入門』（二瓶社，2006年）ISBN:9784861080258 3,600円+税</p> <p>本書は，第1部「行動と行動変化の測定」，第2部「基本的な行動の原理」，第3部「新しい行動を形成する方法」，第4部「望ましい行動を増やし，望ましくない行動を減らす方法」で構成されている。第1・2部が行動分析学の基礎がわかりやすく記され，第3・4部には行動変容を導く技法がわかりやすく述べられている。具体例が多用されているため，行動変容法について医療場面に置き換えて学習することができる。</p>
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> • P.A. アルバート，A.C. トールマン（佐久間，谷，大野，訳）『はじめての応用行動分析 日本語版第2版』（二瓶社，2004年）ISBN:978-4-86-108015-9 3,200円+税 • 『ケースで学ぶ行動分析学による問題解決』（金剛出版，2015年）ISBN:9784772414487 3,600円+税
履修上のポイント	<p>基本教材2の第1部は行動の測定，第2部は基本的な行動原理のうち特に「強化」「刺激性制御」を，十分に理解していただきたい。第3部から行動変容法が詳しく示されている。</p> <p>本講では新しい行動を形成する方法として，「シェイピング」「プロンプトと刺激性制御の転移」について学習する。その方法として前者は結果にアプローチする「分化強化」を，後者は先行条件にアプローチする「先行子操作」を中心に学習する。</p>
レポート課題 1	<p>望ましい行動を形成する手続きである「シェイピング」について，医療場面の具体例を示して，「分化強化」を用いて論じなさい。</p> <p>留意点：望ましい行動形成の医療場面として，「構音の学習」，「嚥下方法の学習」，「松葉杖の使用方法の学習」，「人工肛門造設後のケア方法の学習」，「小児へのトイレトレーニング」等が例として挙げられる。これらを参考にして具体例を検討していただきたい。</p>
レポート課題 2	<p>新しい行動を形成する手続きである「プロンプトと刺激性制御の転移」について，医療場面の具体例を示して，「先行子操作」を用いて論じなさい。</p> <p>留意点：対象となる例として「採血など新しい技術の指導場面」「新しい道具の操作の指導場面」等が例として挙げられる。これらを参考にして具体例を検討していただきたい。</p>

基本教材 1

第 1 回	教材の学修と、本科目の課題の理解
第 2 回	課題として取り上げる題材（応用行動分析学）の検討
第 3 回	基本教材 1 の学修：「3 項強化随伴性」について
第 4 回	基本教材 1 の学修：「強化」と「弁別」について
第 5 回	関連する図書の学修
第 6 回	関連する文献の検索とその内容の学修
第 7 回	レポート課題 1 に向けた事例の抽出
第 8 回	レポート課題 2 に向けた事例の抽出
第 9 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 10 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 11 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	レポート課題 1・2 を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

基本教材 2

第 1 回	教材の学修と、本科目の課題の理解
第 2 回	課題として取り上げる題材（応用行動分析学）の検討
第 3 回	基本教材 1 の学修：「シェイピング」「分化強化」について
第 4 回	基本教材 1 の学修：「プロンプトと刺激性制御の転移」「先行子操作」について
第 5 回	関連する図書の学修
第 6 回	関連する文献の検索とその内容の学修
第 7 回	レポート課題 1 に向けた事例の抽出
第 8 回	レポート課題 2 に向けた事例の抽出
第 9 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 10 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 11 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	レポート課題 1・2 を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証